



浦添市市制施行50周年記念式典

1 社会福祉部門の受賞者の皆さん 2 受け付けを手伝う高校生たち 3 50周年記念歌を歌う神森小学校音楽教師の下地なを美さんとピアノ伴奏の照屋岳史さん 4 松本市長のあいさつ 5 式典の応援に駆けつけた「てだ子」 6 式典で配られた紅サンドとていだーナツをファッションキャンディーと共同開発した浦添商業高校の生徒たち 7 浦添市歌を心の中で歌う出席者の皆さん

浦添市の市制施行50周年を祝う記念式典が10月6日(火)にアイムユニバースてだこホールで行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で式典を延期していましたが、規模を縮小して開催することができました。式典では各部門、合計135の個人や団体に50周年記念表彰が贈られ、松本市長から感謝状と記念品が手渡されました。また、友好都市の愛知県蒲郡市と中国泉州市からそれぞれお祝いのビデオレターが届き、会場で上映されました。ほかにも今年の7月1日に誕生したてだこキッズファースト宣言大使のてだ子が会場にかけつけ、ハンドボール投げを披露し、式典を盛り上げました。当日は浦添工業高校と浦添商業高校の生徒たちが会場運営を手伝い、全世代で市制施行50周年を祝い、式典を支えることができました。

50年の節目を市民と共に祝う



10/13(火) 恒久平和を願う

第74回浦添市戦没者追悼式が浦添城跡内にある浦和の塔前で行われました。毎年市では先の大戦で亡くなられた御霊のご冥福を祈るとともに、世界の恒久平和を祈念するため追悼式を開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より規模を縮小した追悼式が執り行われました。

松本市長は「都市の発展と平和な世の中が多くの犠牲の上にあることを忘れずに若い世代へとしっかりバトンを引き継いでいきたい」とあいさつし、浦添市遺族会会長の宮城寛さんは「戦争を知らない世代が国民の8割以上を占めている現状において75年前の悲惨な戦争の記憶を決して風化させてはならない」と記憶の継承を呼びかけました。



10/10(土) 環境プランナー養成講座始まる

身近な環境を幅広く学び、環境保全活動を推進していく人材育成の場として、てだこ環境プランナー養成講座(全5回)の第1回目が開催され、開講式や座学、野外実習が行われました。講師の琉球大学博物館「風樹館」学芸員であり琉球大学助教でもある佐々木健志先生からは、環境教育で大事なことや浦添大公園の生き物について説明がありました。参加者は「講師の話が分かりやすく、とても面白かった」「子どもや地域の人たちとも感動することを共有したい」と話し、今後開催するカーミージー自然観察会やクリーンセンター見学等の講座についても楽しみにしていました。



10/6(火) 「今自分にできることを」と体が動き人命救助で感謝状

波打ち際で意識を失い倒れている女性を助けたとして市内に住む陽明高校1年生の長谷川 彩里さんがニライ消防本部から感謝状を贈呈されました。

8月に友人と読谷村の渡具知ビーチを訪れていた長谷川さんは水難事故現場に居合わせました。その場にいた読谷高校生10人と美里高校生1人とともに傷病者の女性を安全な場所に移し、119番通報とAEDを装着し人命救助活動を行いました。

長谷川さんは「現場を目の当たりにして焦りました。初めて会う人たちと協力して自分にできることができてよかったです」と落ち着いた様子で話しました。